

岡田小学校の歌声集会で「花は咲く」を合唱してきました。

11月7日(土)岡田小学校の歌声集会が行われました。昨年に引き続き2回目の歌声集会、とても素晴らしい集会でした。

平成27年度 岡田小学校歌声集会プログラム

来賓・地域の方の紹介

開会行事

10:25

はじめの言葉

代表委員会副委員長の話

オープニングソング

「世界が一つになるまで」



4年生の発表

10:30

「まくをあけよう」(合唱)

「BELIEVE」(合唱)

1年生の発表

「すてきな友達」(合唱)

「夢をかなえてドラえもん」(合唱)



5年生の発表

「秋の歌メドレー」(合唱)

「どんなときも」(合唱)

休憩

10:55~11:05

2年生の発表

11:05

「しあわせなら手をたたこう」(合唱)

「友だちはいいもんだ」(合唱)

3年生の発表

「とどけようこのゆめを」(合唱とリコーダー)

「オトナになるって」(合唱)

6年生の発表

「君をのせて」(合唱)

「COSMOS」(合唱)



閉会行事

11:30

全員合唱

「花は咲く」

代表委員会委員長の話

校長先生の話

終わりの言葉

12:00



下の写真は会場の様子です。会場全体が一つになっていました。



体育館に生徒・先生全員、そして子供たちの歌声を聴こうと来場した多数の保護者で体育館はいっぱいになりました。岡田小地区社協にも学校からお誘いがあり、各行政区から約 40 人が参加し、楽しいひと時を共に過ごしました。生徒全員によるオープニングソング「世界が一つになるまで」に続いて、学年ごとに2曲ずつ合唱が披露されました。





そして、最後に私たち地域からの参加者も含む全員で「花は咲く」を気持ちよく合唱しました。
 「元気・かわいい・精一杯」な1年生の合唱から「最終学年だけあってやはりうまい」6年生の合唱、そして開会から閉会セレモニーまで、準備も運営も全て生徒主導で行なわれたそうです。学校が、子どもたちにとって大切な居場所になっていることが確認でき、先生方への信頼感を強めた、土曜午前中の1時間半でした。



6年生・最後の歌声集会
☆君をのせて
☆COSMOS



岡田小1年生の「昔の遊び」授業に名人さん33人

お手玉、あやとり、おはじき、こま、けん玉、将棋、かるたで昔取った杵柄

2月15日（月）に岡田小学校1年生の生活科の授業「むかしのあそびにちょうせん」で、地域の大人たちが「お手玉」「あやとり」「おはじき」「こま」「けん玉」「将棋」「かるた」を教えました。



岡田小地区社協がすまいるサポーターやシニアクラブに呼びかけて集まったのは、39歳から91歳までの「名人さん」33人とリポーター4人。子どもたちは1組12～16人で7組に分かれ、自分の覚えたい遊びを1人2種目ずつ教わりました。遊びが終わった後、名人さんたちは子どもたちと一緒に学校給食をご馳走になりました。

岡田小学校の昔の遊びの授業には、これまで牛久市社会福祉協議会を通じて、校区内のシニアクラブから名人さんが派遣され

ていましたが、これからは岡田小地区社協が名人さんに集まってもらう役割を担当することになりました。



「こま」 こまのひもが巻けません！

今回の遊びのなかで、一年生が最も苦労していたのは、こまでした。

一年生が小さな手で一生懸命ひもを巻こうとするのですが、なかなか上手く巻けず、



ひもが崩れてしまうのです。「ひもの先を水で湿らせて、それをこまに押さえて巻き付けるんだよ。」と指導員が説明します。くやしそうに、何度もチャレンジする姿がいじらしかったです。指導員は、ひもが巻けない子には巻いたこまを手渡し、そのときに持ち方も教えていました。

どうにかひもが巻けると、今度は、こまを回す動作です。「水平に回すんだよ。」と説明する指導員。一年生は不思議な顔をしています。指導員は手ぶりを交えて「水平に」と繰り返します。一年生もやっとわかったようです。でも、回してみると、横向けに転がってしまいます。なかなか、上

手く回ってはいけません。



こまが回ったときの弾けるような笑顔。みんな、いい笑顔です。「名人さんに赤ちゃん指を使うと上手に回せると教わりました。」と述べる子もいました。

「お手玉」 お手玉はいろんな遊び方ができる！

最初にお手玉を2個ずつ持たせて、投げ上げることから練習開始です。次に、一つ投げ上げてキャッチしては、もう一つをとという動作です。みんな、一つ目はうまくキャッチできても、二つ目からは焦ってしまってリズムがうまく作れません。でも、「もしもしカメよ」と歌いながらチャレンジする子もいました。



指導前に、「久しぶりにお手玉を持ったわ。メガネがないと見えないわ。」などとぼろぼろお手玉を落としていた指導員たちも、一年生

の前では3つのお手玉を軽々とあやつっていました。忘れたなんて、なんのなんの。体は覚えていたのです。



上手くできない子は途中で飽きてしまいそうです。そんな子たちには、高く投げて、手をあてて落とす遊び方や、お手玉を頭にのせて歩けるかななどをちょっとやらせてみたり。無理強いはいしないけれど、できる遊び方で楽しめばよい。そんな昔の路地裏のようなお手玉コーナーでした。

「あやとり」 魔法のようなあやとりに興味津々！

どの遊びでも、指導員たちは、一年生にわかるように、言葉をつなぎ、心を配っていました。本来、あやとりは一對一で教え、

教わるのが理想的な遊びでしょう。今回は一年生16人に、4人の指導員という体制でした。しかも、保育園であやとりをした

経験がある子と、したことがない子とでは大変な差がありました。経験がある子は、どんどん難しい技を教わりたがります。ど



一方、あやとりとしたことがない子は、「中指で糸を取ってきて。親指と小指はそのまま。」なんて言われても、もうどの指が動いているのかわからなくなってしまいます。指導員は、文字通り、手取り、糸取

の子も「ほうきができた。見て。」とうれしそうです。



りでした。しかし、一本の糸で遊ぶあやとりは、魔法のようなのでしょうか。男の子たちも真剣な表情でした。また、簡単なあやとりでお餅つきの動作になる二人遊びも、友達同士で楽しそうでした。

「おはじき」 おはじきなのに、はじけません！

指導前の疑問は、「一年生はおはじきをはじけるのか？」でした。その懸念は的中しました。今の子どもはおはじきをはじけないのです。指導員は、おはじきをはじく練習をさせる？いいえ、そんなことはしませ



誰かがおはじきを上手く当てて獲得できると、歓声が上がる。次の子が当てられなくても「惜しい」とまた歓声が上がる、といった調子で、大いに盛り上がりました。

ん。とにかくにも、子どもたちにはおはじきという遊びを知ってもらい、楽しむことに専念してもらいました。親指や人差し指ではじけない子は、人差し指でおはじきを動かすことで善しとしていました。



なかには、他のおはじきに当てないように自分の体勢や位置を変えて、工夫する子も現われ、指導員も驚くほどでした。指導員からは「時間を持て余すのではないかと

心配だったが、楽しんでもらえて、自分も ありました。
楽しくて、来年もぜひ来たい。」という声が

将棋——想定を超える真剣さ

「小学校1年生に30分で将棋を覚えさせるのは難しいのではないかな」当初はみんなそういう意見でした。実際始まってみると、名人さんがあまり一生懸命教えるものだから、キャパシティ・オーバーになった子どもが泣き出す一幕もありました。後で「ああ、そういう子が後で強くなるんだよ」と誰かが感想を述べました。

まだ1年生でも、教わる種目に将棋を選ぶだけあって、子どもたちはみんな「強く



女の子だって将棋やるよ

なりたい」という気持ちが強いようでした。子ども2人が束になって名人さんに挑戦したケースでは、子どもの1人があまりよくない手を打つと、別の子どもが「そんな手を打って」と悔しがる場面もあったそうです。

「あのくらい一生懸命になるのなら、昔の遊び授業は年1回ではもったいない。土曜カップ塾で教えたらどうだろう」という声もありました。



これ、どう動かすの?

けん玉——コツはやっぱり教わって

けん玉は、ほとんどの子どもが初めてのようでした。まず持ち方から教わり、大皿に乗せる練習をしました。みんな一生懸命黙々と乗せようと試みますが、玉を横に振ってしまうためなかなか乗りません。中には「大きい玉が良い」「他のけん玉が良い」と言い出す子どももいました。

何回も何回も挑戦し、ボールを真下に静止させてから上げる・ボールを真っ直ぐ上に上げる・ボールを持ち上げすぎない・ボ



けん玉、初めてなんだ



のったったよ！2回目だよ！

「かるた」ってこんなに活気のある遊びだったっけ？

「かるたはお正月に静かに遊ぶもの」——岡田小1年生の「むかしのおそびにちょうせん」は、かるたのそんなイメージを完全に吹っ飛ばす活気のある授業でした。

14人を5組に分け、3人1組でかるたを取り合います。それぞれの組に名人さんが審判として付きます。歌が読まれると「ハイ」と言って取りますが、この「ハイ」がとにかく元気なのです。5組で一斉に「ハイ」と言い、遅れて手を出す方も「ハイ」と言いますから、会場全体にものすごい活

気を感じるとき膝を曲げて衝撃を和らげる——というコツが身につくにつれて、乗るようになりました。

初めて乗ると「乗った」「出来た」と大喜び。そのうち「これで5回目」とか、小皿に挑戦する子どもも出て来て、楽しい雰囲気広がっていきました。けん玉は、まず名人さんに教わって早くコツを身につけることが、楽しくなるコツだと言えそうです。

気がみなぎるのです。

A4判の大型かるたを全員で取り合ったときは、「走ってはダメ」と言われていても、1枚のかるたに数人が一気に、ダイビングのように飛び込みます。誰が最初に手を付けたのか、審判の存在の重要性がよく理解できました。

子どもたちがかるたにこんなに夢中になるとは——認識を改めさせられた授業でした。



かるたは大好きなんだ



こんなおおきなかるたもあるんだ

一中ボランティア部が模擬店を出店

松ヶ丘の夏祭り・・・学校との連携委員会が協力



学校との連携委員会は、8月6日（土）開催の松ヶ丘納涼夏祭りで、牛久一中ボランティア部が焼きトウモロコシの模擬店を出店するのに協力しました。

参加者は一中ボランティア部から10名（うち2人はボランティア部の顧問の先生）、学校との連携委員会から3名。



松ヶ丘納涼夏祭りの様子

午後2時50分には会場の柏田第4街区児童公園に集合し、3時から作業開始。午後8時の閉店までに185本のトウモロコシを焼きました。

すべて当日の朝収穫したものを午前中のうちに茹で上げ、会場で焼き色を付けて醤油を塗ったトウモロコシは、本来の甘みが全く失われず、味については非常に好評でした。

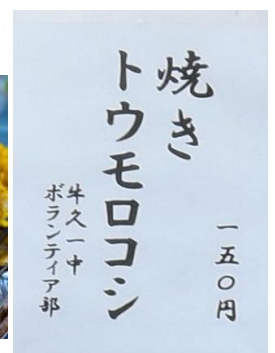


8月1日に皮を剥き、茹で、焼き、醤油を塗り、試食するところまでしっかり練習したので、本番では火傷や熱中症などの混乱もなく、作業は順調に進みました。

松ヶ丘の夏祭りでは毎年、一中松ヶ丘少年団が模擬店を3つ出店します。今年はそこに、一中ボランティア部の模擬店も加わりました。その前評判もあって、祭りの来場者や踊りの輪に中学生と思われる姿が例年より目立ちました。

松ヶ丘の夏祭りは区民が自分たちの良いつながりを確認する、年に1度の夏の夜の野外パーティーです。一中生はそこで非常に大切な役割を果たしてくれています。

一中ボランティア部は地域との連携を視野に入れた新しく生まれた部活動です。たくましく成長していくことを願っています。



岡田小学校の歌声集会は今年で3回目、11月5日(土)、岡田小学校体育会で盛大に開催されました。今年は岡田小地区社協の各行政区から約50方が会場にはせ参じました。

1年生の代表による「はじめの言葉」の後、オープニングの全体合唱があり、歌声集会が始まりました。当日のプログラムは次の通りです。

平成28年度 岡田小学校歌声集会プログラム



来賓・地域の方の紹介

開会行事

10:25

はじめの言葉(泊 世称, 向島 梨乃)

代表委員あいさつ・学校紹介(釣 那奈美)

オープニングソング

「YUME 日和」(指揮:後ノ上 ひなた, 伴奏:藤井 玲)



4年生の発表

10:35

「未知という名の船に乗り」(指揮:大嶋 紗良, 伴奏:首藤 悠羽)

「Smile Again」(指揮:佐久間 晴葵, 伴奏:小口 花音)

1年生の発表

「たのしいね」(伴奏:福岡 亜由美<3年生>)

「天使の羽のマーチ」(指揮:山崎 真由美<1年生>)

伴奏:福岡 亜由美<3年生>)



5年生の発表

「怪獣のバラード」(指揮:黒澤 花奈江, 伴奏:小野寺 来心)

「マイバラード」(指揮:羽鳥 怜惟, 伴奏:鎌田 真凜)

休憩

11:00~11:15

2年生の発表

11:15

「ドレミの歌」(伴奏:平井 美幸<2年生>)

「世界中のこどもたちが」(伴奏:平井 美幸<2年生>)

3年生の発表

「世界の子どものマーチ」(指揮:二ノ宮 悠, 伴奏:佐藤 康子<2年生>)

「Tomorrow」(指揮:西野 百花, 伴奏:佐藤 康子<2年生>)

6年生の発表

「大切なもの」(指揮:枝川玲奈, 伴奏:今村 心咲)

「セピア色になっても」(指揮:谷本 祐子<1年生>, 伴奏:前田 凜)

閉会行事

11:50

全員合唱

「花は咲く」(会場の皆さんも、ご一緒におねがいします)

(指揮:森田 桃菜, 伴奏:飯田 結衣)

代表委員長あいさつ(黒須 春佳)

校長先生の話

終わりの言葉(藤原 ほなみ, 伊藤 颯希)

12:00





左の写真は会場の様子です。熱気にあふれた様子がうかがえます。



合唱 コンクール

体育館に生徒・先生全員、そして子供たちの歌声を聴こうと来場した多数の保護者で体育館はいっぱいになりました。生徒全員によるオープニングソング「YUME 日和」に続いて、前半の3学年の合唱が始まりました。4年生、1年生、5年生の順に学年ごとに2曲ずつ合唱が披露されました。



休憩をはさんで後半は2年生、3年生、そしてトリは6年生、どの学年も歌いこんでいるだけに、素晴らしい歌声でした。



最後に会場全体での「花は咲く」お大合唱、気持ちよく過ごした2時間半でした。
児童の皆さん、元気をくれて有難う。

岡田小の授業を参観し校長先生の話をお聞きました

9月16日 すまいるサポーター33人が参加

平成28年9月16日（金）にすまいるサポーター33人が参加して、岡田小学校の授業を参観し、学校給食を食べさせていただいた後、校長先生のお話を聞きました。

1. 授業参観

授業は3年生は遠足、4年生は運動公園での水泳教室のため、1、2、5、6年生の授業を参観しました。

先生がどんどん講義し、生徒は黙ってそれを聴く昔の授業と違って、牛久市の小中学校が行っている学び合いの授業では、分からない子どもは隣の分かる子どもに聴き、難しい問題については4人グループで1人1人が自分の考えを述べて、問題解決に到達するように心がける。

その結果、子どもたちみんなが生き生きと授業に参加している様子が印象的で心強さを感じました。



2. 給食

授業参観の後は宮田校長、栗山教頭と一緒に給食をいただきました。給食の中身は写真をご覧ください。野菜たっぷりの団子汁に、これも野菜たっぷりのハンバーグ、とても良い味付けで、美味しくいただきました。（給食費は270円、参加者それぞれが支払いました。）



3. 校長先生のお話



校長先生は、岡田小学校が
どういう考え方で授業を行っ
ているかを、プロジェクター
で要点を映し出しながら話し
てくれました。

学校がどのような視点で授
業を行っているか理解でき大
変勉強になりました。

授業改善の視点

- 1 深い学び
比較・推測・根拠を明確に説明したり
話し合う
- 2 対話的な学び
他者との協働や外界との相互作用を通
じて、自らの考えを広げ深める
- 3 主体的な学び
子ども自身が興味をもって積極的に取
り組む
子ども達が自らの学習活動を振り返っ
て次につなげる

(文部科学省)

授業づくりの視点

- ・しっとりとした雰囲気の中で学ぶ授業
- ・互いに聴き合い学び合う授業
- ・ひとりで考えるのではなく、みんなで考える
授業
- ・わからなさを共有する授業
- ・一人一人を育てる授業
「わからない」「教えて」と言える子
最後まで教えたり寄り添ったりできる子
「教えてくれてありがとう」と言える子
- ・1、2年生はペア・3年生からグループを取り
入れた授業



これからの学校は地域とともに

- ・平成29年度から学校運営協議会を設置
(コミュニティ・スクール)
- ・学校運営協議会の委員
(牛久市の非常勤特別職となる)
保護者代表、地域代表、有識者、
学校職員 等
- ・学校運営協議会の役割
学校運営の基本方針を承認、学校課題
解決に参画、学校支援の総合的な企画・
立案、学校評価、等

(文部科学省の資料より)



みんなで一緒に学校給食を食べた時のくつろいだ雰囲気、その後の校長先生
のきちんとした講話と意見交換。とてもメリハリの利いた学校訪問でした。